

科 目 名(Subject)	現代経営組織特論 (Organization Theory)		
単 位 数(Credits)	2 単位	開講時期	後期
担当教員名 (Name)	(非常勤講師) 加藤 敬太 (Keita Kato)	研究室番号 (Office)	—
Office Hours	e-mailで連絡してください。		

1. 授業目的・方法(Course objective and method)

本授業は、大学院レベルの経営組織論の教科書 Hatch, M. J.& A. L. Cunliffe (2017). 『Hatch 組織論』 同文館出版を輪読し、経営組織論の最新の議論を学ぶことを目的とします。この教科書は、世界的に有名な経営組織論の教科書で、内容は網羅的です。受講生の皆さまの研究関心に応じて関連する内容を掘り下げたりしながらのディスカッションができればと思っています。

2. 達成目標(Course Goals)

経営組織論の大学院生レベルの基本的な知識を習得することを最終目標とします。ご自身の研究テーマと関連付けて知識を習得することも併せて目標とします。

3. 授業内容(Course contents)

第1回：オリエンテーション

第2回：『Hatch 組織論』を学ぶにあたってのイントロダクション

第3回：なぜ組織論を学ぶのか？

第4回：組織論の歴史

第5回：組織と環境の関係

第6回：組織の社会構造

第7回：テクノロジー

第8回：組織文化

第9回：組織の物的構造

第10回：組織のパワー（権力）、コントロール（統制）、コンフリクト（対立）

第11回：第Ⅰ部「組織論とは何か？」第Ⅱ部「コア概念と理論」を振り返る

第12回：理論と実践

第13回：組織論における将来有望な新しいアイデア

第14回：第Ⅲ部「過去を振り返り、将来を見据える」を振り返る

第15回：総括ディスカッション

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

教科書の事前に決められた箇所を読んできてください。そのうえで授業中にノートを取っていただき復習に活用してください。

5. 使用教材(Teaching materials)

Hatch, M. J.& A. L. Cunliffe (2017). 『Hatch組織論—3つのパースペクティブ—』 (大月博司・日野健太・山口善昭訳) 同文館出版。 (Hatch, M. J.& A. L. Cunliffe (2013). *Organization theory: modern, symbolic, and postmodern perspectives*, 3nd ed., Oxford University Press.

※翻訳本を輪読のテキストにしたいと思います。

6. 成績評価の方法(Grading)

授業中のディカッションに基づいて評価させていただきます。

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

輪読文献をしっかり理解できたかどうかを基準とさせていただきます。

8. 履修上の注意事項(Remarks)

受講生の専門は問いません。ぜひご自分のご専門に基づいて経営組織論に興味を持っていただければ幸いです。時間割は後期月曜日夜間の時間帯に札幌サテライトに設定していますが、受講生の皆さまと相談のうえ、小樽本校や他の曜日・時限など可能な限りの対応をさせていただきます。また輪読文献も場合によっては受講生の関心に合わせて臨機応変に変更することもあり得ます。